

特 42

456

訂正
觀世流
内百拾番

弓八幡

103

King's College



第一

神代志の男とくくろく神

早羽

松島後宇多院子位

下也徳とくくろく神

備前守長教とくくろく神

あまのつとむとくくろく神

とくくろく神



美しき夢を申し給ふ御心持の御事侍

と申す君の御事おもしろく有難く

ぞと申してたゞ題目の御事梅共と

夢を申すとの私に思ひ寄るおもしろく

由はの御事^上遠くおもしろく

是れは古言の御事おもしろく

美しき御事おもしろく

則ち世に社神を申し其れは^上御事

早振の御事おもしろく

世に治りし御事おもしろく

おもしろく御事おもしろく

早の御事おもしろく

弓を御事おもしろく

おもしろく御事おもしろく

レテ

神上 唐土國の代を信ず
國のきりまの引箭を信ず干戈を
とま 例のきりまの引箭を信ず
鋼と箱の納むる社 秦平の妻のきり
のきりまの國の代を信ずの代を信ず
技業の國を信ずの代を信ずの代を信ず
かきりまの國を信ずの代を信ずの代を信ず

君の船に信ずの代を信ずの代を信ず
ひく真木に信ずの代を信ずの代を信ず
神祓を信ずの代を信ずの代を信ず
かきりまの國を信ずの代を信ずの代を信ず
信ずの代を信ずの代を信ずの代を信ず
信ずの代を信ずの代を信ずの代を信ず
信ずの代を信ずの代を信ずの代を信ず
信ずの代を信ずの代を信ずの代を信ず

出づぬよ神功皇座ニ韓と志はりて
 一とらむなるく應神天皇の神運
 位をくく國の民をくく
 天下今にまをぬ
 乃月歸りて
 樂の音あやせ
 君を守りぬ
 申せり

かの故より天^ヤ皇名^ノ御宇^カ
 考^ト前^ニ乃^ハ國^ノ守^リ佐^ル郡^ノき^ニん^タだ^シて^ハ表^ス
 麓^ノに^ハ清^ク宮^トあり^しを^ハれ^バ市^ノを^ハり^て雲^ノ
 考^ト今^ニあり^し洛^陽考^ト南^ノ乃^ハ山^ノを^ハり^て雲^ノ
 御代^ニを^ハり^し石^ノ清^ク水^ノあり^し時^ニ
 靈^ヲを^ハり^し神^ノ功^ノ皇^ノ座^ニ
 異^ニ國^ノ皇^ノ治^ノ乃^ハ神^ノ功^ノ皇^ノ座^ニ表^ス

峯にわたる七箇目の神事あり
今も久しき大の岩戸乃神遊の心
かゝ神名神事乃あそびまじりて
おまじりてかゝる神事上ヒテなり
まも神代乃記まじりて道あり
まつりて神事カなりまじりて
たまの神事カなりまじりて結ひつ

て早振神ありて七日七夜乃神
神事乃大の神事カなり感念なり
山にまじりて神事乃大の神事
まじりて神事乃大の神事
けり上ロニキ地なり神事乃大の神事
更なる神事乃大の神事
けりカなり神事乃大の神事

月乃我神樂と奏くして君神初心
遠のつる祓ひしを瑞籬乃久くまつらる
かしき神多減の世を延く
地いけ奉よの世もいけ奉る
上高良の神と神多此神代と守
ヤ高良の神と神多此神代と守
むらさきの世にありたるを播大菩薩
乃神速とてなすもて世にま
七

早上下
朝飯神初とく
奏く奏く上つてあつたもあつた
あつて異も書も世にあつた
奇好しく後上下
我神代のあつても神の世に
まはるあつ相乃月乃れい萬代
左動の神と君もあつた
早上下
朝飯神初とく
奏く奏く上つてあつたもあつた
あつて異も書も世にあつた
奇好しく後上下
我神代のあつても神の世に
まはるあつ相乃月乃れい萬代
左動の神と君もあつた

